

## Project 5

# 外国の子どもたちとの関わり方を考える

チルドレンwithフォーリンルーツ



岡本彩希さん(左)  
増田紗良さん(右)

### 文化や言葉の壁

私たちの周囲には、小学生の頃から外国籍の児童が多くいました。言葉が違うことからコミュニケーションがうまく取れず、距離が遠いという固定観念を持ってしまっていました。また、全国的に「いじめ」が問題となっている中、言葉や文化の違いがはじめの原因になっているケースもあるのではないかと考えました。

そこで、「虹の架け橋菊川小笠教室」取材し、現状を聞きました。菊川市では、およそ30年前から外国人児童生徒が多く住んでいるので、学校側も受け入れの体制が整っていると教えてくれました。いじめについても、現時点では確認されていないとのことで、安心しました。

一方で、菊川市以外の市では、まだまだ受け入れ体制が整っていないことや、学校の先生以外の人に対する

市での多文化共生担当や教育委員会、虹の架け橋にも協力してもらい、「やさしい日本語」を広めていきたいです。

「やさしい日本語」の普及  
やさしい日本語は、外国人にも分かるように簡単にした日本語のことです。これを多くの人に知ってもらうためのポスターの制作を、私たちが通う常葉大菊川高校の美術・デザイン科の生徒に依頼する予定です。また、常葉大菊川高校は市外から通っている生徒も多いので、生徒にポスターを配布することで、周辺の市にも広がっていくと考えました。

が浸透していないことが課題となっており、分かります。



## 発表を聞いた大人たちの感想

学校からまちに出て行動する高校生がとても頼もしく感じました。これからも地域との関わりを続けてください。

コミュニティナースを初めて知りました。これからの時代、とても大事なものだと思います。ぜひ認知度を上げるため頑張ってください。

豊かな自然がそこにあるということが一目でわかるデザインでとても良いですね！棚田の世界を知ることができました。

実際のデータ・聞き取りが丁寧にできていて、殺処分を減らすために何が必要なのかわかりました！高齢世帯向けに広報菊川に載せるという提案は面白いなと思いました。

菊川市は外国人の比率が高いので、普通に分け隔てなく接してほしい。テーマの選定が菊川市の課題と直結していて良かった。「やさしい日本語」をぜひ広げていってください。

自ら体験し、課題を見つけてよく調べて取り組まれているなと思いました。クオリティの高いパンフレットなどが多く、市民にも見てもらって、課題解決につながると良いなと思いました。頑張ってください！



講師：NPO 法人  
わかものまちな  
土肥潤也さん

いろいろな自治体で高校生のまちづくり参加のプログラムを担っていますが、菊川市は市民協働センターの皆さんが高校生の伴走をしてくれておかげで、他の自治体ではあり得ないほど多くの地域の大人たちと出会うことができました。全5回、半年間のプログラムの中では、誰かから教えてもらうことよりも、自身で行動したことの方が、大きな学びにつながったのではないのでしょうか。

何か自分が関心があることや課題に感じることがあつたら、それとどのように向き合っていけばいいのか、それを解決するためにどんなアクションをすればいいのか、その方法をこのスクールの中で身に付けることができたと思います。

今回発表してくれた中には、まだプロジェクトが終わっていないチームもあります。ここには高校生を応援している大人がいます。私もまた菊川市に来て、サポートをします。今回の講座をスタート地点にして、これからも一緒に取り組んでいきましょう。